

## 東日本大震災被災地への カーシェアリング支援が取り上げられました

東日本大震災

### 被災地へ贈る車整備

姫路・日本工科専門学校生が3台

姫路市兼田の日本工科専門学校で、東日本大震災の被災地に届ける「カーシェアリング」用の車の整備が始まっている。同校に託された3台のうち1台は、菓子メーカー「カバヤ食品」

(岡山市)の社員が昨年他界した妻の愛車を寄贈したものだ。点検に当たる学生たちは「皆さんのいろいろな思いを込めて整備したい」と意気込んでいる。(三木良太)

### 仮設住宅などの住民が共同利用 「寄付者の思い届けたい」

カーシェアリングは、1台の車を複数の人たちで共同利用する仕組み。津波で車を失った被災者や仮設住宅の住民らに向けて、日本カーシェアリング協会(神戸市)が被災地への導入を計画。整備や点検で協力する同校が車の提供を呼び掛けたところ、交流があるカバヤ食品の生産管理部長、景山勝巳さん(57)岡山県から寄贈の連絡があった。贈られたのは、昨年2月に病気で他界した妻三枝子さん(当時54)が使用していた紺色の乗用車。景山さんは「ボランティア活動に取り組んでいた妻なら、東北のために何かしたはず」と乗用車を生徒に託した。



東北に届ける車を点検する生徒たち(姫路市兼田)

ほかに姫路市御国野町の自動車整備会社「神姫商工」が提供した乗用車2台と合わせ、同校車体工学科と一級整備士専攻

科の生徒10人がエンジンやブレーキなどを点検。年内にも宮城県石巻市に届けるという。整備に当たる山下徹也さん(20)「上郡町竹万」は「生懸命点検した。車を寄付してくれた方々の思いも届けたい」と話す。

2011年10月5日(水) 神戸新聞掲載